

人と防災未来センター 令和4年度事業評価

中期計画の各年度の達成状況を事業単位ごとに評価  
 ○評価基準（4段階評価）  
 ・S：大変評価できる  
 ・A：評価できる  
 ・B：あまり評価できない  
 ・F：評価できない

| 評価事業単位  | 評価 | 委員コメント  |
|---------|----|---|
| 展 示     | A  | <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の修学旅行等の集客や「ぼうさいこくたい」の機会の活用など、多様な手段を講じて年度後半に利用者数が回復した点は大いに評価する。</li> <li>・開館 20 周年の多角的な企画展や震災資料によるスポット展示も好評である。展示物の豊富さや工夫が洗練されてきており、西館から東館の流れも自然な形で受け入れられる。</li> <li>・こころのシアターの新作映像はよくできており、またシアターの多様な活用策が活性化につながっている。東館サイエンスフィールドなど子供と家族が自分の事として考えるきっかけになる取組は重要である。</li> <li>・様々な 20 周年事業を展開した結果マスコミに取り上げられた数が大幅に増加した。さらにホームページでの 3D&amp;VR 映像・館内順路アニメーションの追加、インスタグラムの開始等、様々な情報発信を展開している。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸の都賀川災害はゲリラ豪雨の象徴であり身を守ることを学ぶために常設展示の設置が望まれる。</li> <li>・オンライン見学やEラーニング等の手法を取り入れ広範な展開を期待する。</li> <li>・膨大な震災資料があるがこれらの研究部門での活用がわかる展示が望まれる。</li> <li>・こころのシアターと語り部コーナーとが繋がれば、さらに伝わりやすい。</li> <li>・コロナ禍前の利用者数程度までの回復を今後に期待する。</li> <li>・県外展示や SNS 等による一層の全国への普及啓発、将来の担い手となる児童・生徒も含め消防団・自主防災組織への加入を促す展示を期待する。</li> </ul> |
| 資料収集・保存 | A  | <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着実な資料収集・保存整理や電子化により、28 年が経過したにも関わらず資料のアーカイブの質が維持されていることを評価する。</li> <li>・様々なテーマを考えた企画展開催による資料の利活用や震災を思い起こさせるような取組、また東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」との連携による阪神・淡路大震災資料の全国規模の活用なども重要である。</li> <li>・資料専門員の業務体験を通じて、その重要性を伝える取組を評価する。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間経過するなかでも被災者から震災資料が寄贈されているが、その数が減少気味なので、新たな発掘の仕掛けづくりが望まれる。</li> <li>・より広く一般の方にも資料室に来てもらえるような宣伝を行い、ポテンシャルのある人に広がることを期待する。</li> <li>・資料専門員の業務体験は、今後難易度に応じて、中・高・大学生にも拡大し、作業を通じて伝えていくことが望まれる。</li> </ul>  |

| 評価事業単位                             | 評定 | 委員コメント   |
|------------------------------------|----|--|
| 実践的な防災研究と若手防災専門家の育成／災害対応の現地支援・現地調査 | S  | <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中核的研究では自治体災害対応の実践につながるワークショップの開発やマニュアル作成等を行っておりその成果はすばらしい。こうした様々な研究成果は国等との意見交換や自治体の防災会議委員の就任などを通じて、防災施策の立案や社会の実装につながられていることを評価する。</li> <li>・若手防災研究者の育成の結果、既に多方面で活躍しており、我が国の防災研究における人材供給に大きく寄与している。</li> <li>・被災自治体への積極的な派遣による調査支援を行うとともに、その成果を減災報道研究会で活用するなど、研究の促進と成果の普及を評価する。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材難もありやむを得ないことと思われるが、防災研究の要である土木・建築・地震・地盤などの研究が減少気味なのが気がかりである。</li> <li>・部局間の越境・連携のテーマは地域福祉でも進まない現状があり、縦割りの弊害を排し、市民生活に寄り添う政策が実施できるよう、行政の他部門まで影響を及ぼすことが望まれる。</li> </ul>   |
| 災害対策専門職員の育成                        | S  | <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的な研修の仕組みが整っており適切に実施が継続されている。また時宜に応じた特設コースの実施は効果的である。</li> <li>・首長がワークショップや記者会見を体験するトップフォーラムは頼もしく、地方行政の重要なリテラシーを担うことになる。</li> <li>・各研修とも受講者アンケートの満足度が高く、またオンライン研修では、参加が少なかった地域からの参加が増えたことも評価できる。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災研修は気持ちを伝えることが大切であり、人的なネットワーク形成の面からも特にベーシック研修は対面が望まれる。</li> <li>・火山噴火被害想定を活用など京大防災研との連携の促進が望まれる。</li> <li>・災害時の自治体職員の言動は人の心を左右するほどインパクトがあるので、今後も充実させながら「正しく恐れる」職員の養成に努めてほしい。</li> <li>・マスコミ関係者向け報道の在り方等のコースがあってもいいのではないか。</li> <li>・消防庁との研修のノウハウの共有など相乗効果の発揮を期待する。</li> <li>・災害対策職員研修は、内閣府スペシャリスト研修と人防研修があるが、これまでの研修資源を生かした統合的な研修プログラムの検討が望まれる。</li> </ul> |
| 交流ネットワーク                           | S  | <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開設 20 周年での様々な活動は素晴らしい。さらに「ぼうさいこくたい」開催に際して現地企画・情報共有会議を設置し多数の参加を得るとともに、今後の「ぼうさいこくたい」にも多大な貢献をされており、極めて高く評価される。</li> <li>・センター主導の全国災害伝承ミュージアムネットワークづくりを評価する。</li> <li>・防災 100 年えほんプロジェクトの展開や災害メモリアルアクション KOBE による震災を知らない世代の取組など、様々な防災減災啓発事業を充実させており、災害の経験を次世代へ伝承する貴重な取組として評価する。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流ネットワークによる地域貢献の実施は今後も持続することを期待する。</li> <li>・今後もセンターが防災をテーマにした全国の取組を担うことを期待する。</li> <li>・国際防災・人道支援協議会が地球温暖化のテーマを引き続き進めることが望まれる。</li> </ul>  |